

平成26年度第1回

まちづくりふれあいミーティング 質疑応答

市民：

来年の市長選を控え、市長がやり残したこと、または新たに始める政策など考えているか。もし考えがあれば、スケジュールなどを含めて教えて欲しい。

市：

公約に掲げたことでやり残したことはほとんどない。新保健センターも幸いに平成27年度に建つことが決まった。しかし、富里市はこれからも続いていくので、公共交通や生活環境などについて、やらなければならないことはある。

市民：

新しくできる市民サポートセンターについて2点提案したい。1点目は、会議室壁の4面のうち1面をホワイトボードにして、プロジェクターのスクリーンの役割にもなるものにして欲しい。2点目はインターネットが利用できるパソコンの設置だけでなく、できればWi-Fi接続ができるようにして欲しい。図書館と同じような環境であると、相談や話をしながら使うことができない。

市：

市民サポートセンターは、今の段階では間取りなどの設計はできているが、会議室などは利用者の数に応じて多少は変動できるようなスペースのようなものを考えている。ホワイトボードの固定化となると、利用状況を考えてから検討するので、すぐに回答は難しいが1つの意見とさせていただきます。インターネット環境については、パソコンを置く場所がオープンスペースになる予定であるが、より使いやすい空間として可能であれば、1つの意見として今後検討させていただきます。

市民：

市政報告の中で新アクセス構想について「成田空港から富里を通って八街へ」という話があったが、都心から繋がる線のほうが良いのではないかと思うのですが、どのように決まったのか。

市長：成田空港から八街へという構想は、昔、軽便鉄道が通っていたものを復活させてはどうかということで、若い職員でプロジェクトチームを作り、研究・調査をした。その報告書が2月に提出され、ホームページや市役所玄関ロビー、日吉台出張所、図書館で閲覧できる。

市民：

原子力発電がストップしている状況で省エネが叫ばれていますが、市として街灯をLEDに変える計画はあるか。

市：

予算などの問題もあり、全てをすぐ変えることは難しいので、時間をいただくことになるが防犯灯のLED化は考えている。

市民：

市の防災マップではドクターヘリの着陸場所がはっきり表示されていない気がする。一番近い場所がどこになるのかわからない。

市：

ドクターヘリのヘリポートの周知は足りなかったかもしれない。市内は小学校7か所、中学校3か所、市所有の公園に4か所、市所有の運動場に2か所、民間所有のグラウンドに2か所の計18か所のヘリポートがある。

マップへの表示については、マップが作成済みであるため、すぐに変更することは難しい。変更できるタイミングにわかりやすい表示を検討できればと思う。

市民：

消防署で救急救命講習を受講したが、受講修了証は常に携帯でき、いざというときに提示できるサイズに改善して欲しい。通常のカードサイズよりも少し大きいので財布に入らない。また、救命救急講習を受けている市民もたくさんいるので、AEDの設置場所もマップなどではっきりさせたほうが良いのではないか。

市：

修了証の大きさについては確認し、検討する。AEDは市の公共施設については、ほぼ設置されている。防災マップに全て表示することは難しいと思われるが、検討課題とする。

市民：

酒々井インターを降りてすぐの場所の看板の「富里」の表示がされなかった件について、いろいろな機関へ相談したが、なかなか改善されなかった。どこへ相談したらいいのか。

市：

該当の場所はネクスコの管理ではないかと思われる。近くに設置している市の看板については、4月の開通式の当日に目隠しのシールをはがし、表示が見える状態にした。いずれにしても、看板等でお困りの際は建設課に相談いただければ、市からもお願い

をする。

市民：

高齢化に伴う病気や寝たきりが問題になっている。健康のためにも歩くようにしているが、安全に歩ける道が欲しい。富里には森などの自然や南大溜袋の遺跡などの資源を活かしたり、農道を整備して活用してはどうか。

市：

高齢化はすでに始まっていて、健康のために歩くことは素晴らしいこと。市では120万歩ウォーキング事業を実施し、歩くことを奨励している。散歩コースのマップは検討する。農道は市で管理をしていないため、整備や散歩コースに指定するのは難しいと考えている。

市民：

林道のように市町村と併用協定を結ぶという方法はいかがか。

市：

現在の農道はあくまで田んぼに入るための道であって、市道としての併用は難しい。また、南大溜袋遺跡は県の指定の遺跡で、現在は個人所有の農地となっている。遺跡については、発掘調査を行った40㎡が県の指定を受けており、現状維持を図らなければならない。その周辺を整備するなどの政策は可能かもしれない。

市民：

十倉は広いので、住居表示を変更して欲しい。歴史を残したいというのであれば、「十倉実の口」などとすれば良いのではないか。

市：

十倉の住居表示については、以前から問題になっていて町になる時にも変えようという動きがあった。今まで2回挑戦したが変えられなかった。難しいかもしれないが、わかりづらいので変えられれば変えたいと思っている。

市民：

袋小路になっている私道について、市が買い上げる、または補助するなどして、みんなが通れる道路にしたほうが良いのではないか。

市：

行き止まりになっている私道についての補助は、現在のところはない。しかし、何か他の方法で手伝いができるかもしれないので、その都度ご相談いただきたい。

市民：

富里は災害に強い住みやすいまち。それをもっとPRして若い世代の転入を促してはどうか。

市：

災害に強い土地ということは本当にありがたいし、さらに災害に強いまちにしたい。また、若い世代のために、福祉、子育てに力を入れている。平成28年度くらいには保育園の待機児童ゼロにしたいと考えている。

市民：

富里は農業が盛んだが、市の人口を増やすためには農業法人を誘致して働きやすい環境を作れば若い人の就労も増えるのではないかと。また富里の発展にも繋がるのではないかと。

市：

農業法人はいろいろな形があり、農業者が自ら農業法人となることもあれば、他産業が農業法人として農業者と提携した形の法人などがある。国が他産業の法人が農業に進出するようすすめているが、農業者だからこそ経営が赤字でも農業をやっていくということが根底にある。法人の場合は赤字になってしまうと撤退という現実的に難しい問題もある。

市民：

道の駅の構想が発表されたと思うが、その後どうなったか。

市：

道の駅の構想自体は今もないし、過去にもない。道の駅ではないが、1日も早く岩崎別邸を皆さんに公開して観光の目玉にしたいと考えている。

市民：

図書館2階の部屋は本に関する活動に限られているために貸出しできないとのことだが、もう少し借りやすくなるか。

市：

図書館施設として事業の目的に合致するものに限っている。貸館事業としては公民館を利用いただきたい。